

お題「ついつい」互選 数字は票数

3 五七五と指折っている車中でも

仁史
郁子

知らん振りできずにかけてしまう声
親しさについ愚痴も出るおのろけも

ヨイシヨイシヨと日に何回口に出る

きよな
千楽

これ言えば後悔するが言っちゃった

充
哲子

5 今の世はついうっかりが死を招く

お昼前朝めし食べてテレビ席

幸男
えいじ

はからずも声に出ている下心

6 天高く新米炊けばつい二膳

幸男
えいじ

逢うつもり無いのに足が彼に向く

7 秀 心だけ途中下車するひとり旅

幸男
正清

お題「まだ」(連記) 森里えいじ選

百迎えまだまだ遠い天国は

基弘
正清

まだまだの意味が判らず五十年

幸男
郁子

お迎えが来ても早いと追い返せ

幸男
郁子

食卓に夫の手料理並ばない

幸男
郁子

余熱ありじっくりあがる卵焼き

幸男
郁子

いい香りついつい手が出つまみ食い

幸男
郁子

まだですかそろそろ迎え拒否しない

幸男
郁子

百めざす人から見れば喜寿子供

幸男
郁子

まだ続く汗と涙とほほえみと

幸男
郁子

早ばやとおせちの予約決めかねる

幸男
郁子

まだまだと言えばくつくお犬様

幸男
郁子

気がかりがあればくつくとお犬様

幸男
郁子

もういいか心は否定揺らぐ意志

幸男
郁子

秀 まだまだと共に歩いて八合目

幸男
郁子

軸 生まれたと知らせあったがまだ会えず

幸男
郁子

お題「昭和」五十嵐千楽選

幸男
郁子

昭和生まれいつまで一人親不孝

幸男
郁子

白黒のテレビの前に大家族

幸男
郁子

金持ちの家では家電揃ってた

幸男
郁子

ちやぶ台が消えて今では一DK

幸男
郁子

ちやぶ台のさんま今では高級魚

幸男
郁子

背を押してくれた昭和の歌謡曲

幸男
郁子

レコードに針をおとしてジャズを聞く

幸男
郁子

ウララウララに昭和の匂い立ち込める

幸男
郁子

公園に子どもが群れていた昭和

幸男
郁子

青春はどっぷり昭和まよって

幸男
郁子

秀 銀幕に稀有なスターのいた昭和

幸男
郁子

軸 日暮れでも遊びまくった昭和っ子

幸男
郁子

お題「歩く」(共選) 水間 充選

減量にウォーキングの逆太り

老人の散歩か犬がお供する

岩道を登り路傍のななかまど

プールでは泳ぐべきだが歩いてる

登山ぐつ叶わぬ夢の富士の山

愛犬と歩数合わせる信頼度

歩数計たった十歩の部屋ごもり

出世街道外れて歩き得た宝

食い違う歩け歩くな内科外科

半額のサブリ気にする膝と脚

秀 さざ波も静めて二人半世紀

軸 並木道まっすぐなので疲れます

お題「歩く」(共選) 原 広子選

愛犬と歩数合わせる信頼度

登山ぐつ叶わぬ夢の富士の山

隙あれば噂話が歩き出す

交差点渡る園児の不安顔

お散歩に見知らぬところ帰路がない

芒原歩けば響く蛇忽の句

お散歩によく会う人の名が出ない

出世街道外れて歩き得た宝

食い違う歩け歩くな内科外科

悩みごと連れて歩いた秋の月

秀 並木道まっすぐなので疲れます

軸 時々振り返ってねご用心

自由吟 自選

愚痴聞いてくれる友いて救われる

自分でも信じられないけど後期

入選を張り合っている写真と句

生と死のあわいにレンズ向けるプロ

裕次郎知らぬ世代が闊歩する

まだまだか聖徳太子隠しとこ

暑さしのぎ秋風すずし宵の月

秋大好き栗梨柿の供揃い

一筆にかいてぼさつのゆめの跡

青空におたまじゃくしと里の秋

危ういぞ四季後がない春と秋

独裁は回りに誰もいなくなり

ちさと

登美

正清

仁史

きよな

哲子

きよな

アキラ

幸男

幸男

千楽

充

哲子

きよな

基弘

基弘

正清

郁子

ちさと

アキラ

幸男

哲子

充

広子

アキラ

郁子

えいじ

きよな

ちさと

千楽

乳酸菌疲れた腸に愛送る
人生の緩いカーブに油断する

哲 子

花よりも実を取る嫁の強かさ
鬼仏皆それぞれの胸の内

登 美

傷ついたロボット泣かず血もださず
名医より上手いあいづち医者いらす

乃り子

敬老の日孫より電話元気だね
目的地気持ちあせれど未だ先だ

仁 史

母さんが笑うと空気まるくなる
試験の日多めによそうお仏飯

広 子

しばらくは萩ふく風の言うがまま
沸点をこえて燃えたつわだかまり

正 清

貯蓄の日生まれたけれど効果なし
秋祭り不作の年も祝います

充

携帯にいつも行動監視され
公園の小蔭で一句詠んでみる

基 弘

卒寿からマイクロチップ義務化する
若返る特効薬を待つ傘寿

幸 男

鹿ノ台川柳教室教材

☆新聞巻頭句獲得

十月十二日奈良新聞 北谷敦美選「ふたつ」
国葬へ世論ふたつに割れたまま 郁 子

☆川柳番傘十月号で、鹿ノ台教室にも以前来られて
いた大塚よしのぶさんが同人近詠で巻頭句になら
れました。日本一！ スゴイことです。

人はすぐバベルの塔を建てたがる
本物の馬鹿は哲学持っている
もひとりのボクが無能を認めない
疎まれる前に逝きたし曼殊沙華
気付かずに言葉に棘を入れている
流れには任せぬボクの櫂がある

☆推薦十句 田中薫選 *句会結果掲載順

心だけ途中下車するひとり旅 ちさと
まだ続く汗と涙とほほえみと 広 子

生まれたと知らせあったがまだ会えず えいじ

公園に子どもが群れていた昭和 アキラ

歩数計たった十歩の部屋ごもり きよな

さざ波も静めて二人半世紀 千 楽

悩みごと連れて歩いた秋の月 哲 子

生と死のあわいにレンズ向けるプロ 郁 子

人生の緩いカーブに油断する 哲 子

試験の日多めによそうお仏飯 広 子

評 私は、い抜き、ら抜き言葉は不完全な言葉と
して下5には使わないことにしています。使うと
リズムが軽すぎ締まらないように思えます。番傘
の田中新一主幹が川柳は時代の最先端を詠みた
いと言われたのが気になっています。手あかのつ
いた言葉表現は捨て、自分の独自の目で時代の先
端を見つめたいと思うのですがなかなか出来ま
せんね。 田中 薫

☆市長さんにオータムフェスタの句の展示を願
いしたら、ありがたいことになるとOK。コメント
文を市長さんのお話から作り、添削をお願いしまし
た。訂正箇所は「子供」は「子ども」にとのこと。
ハツと自分の至らなさを教えられましたね。これか
らは「子ども」と書くようにします。 アキラ
四十過ぎ昔イケメン今イケメン

生駒市長 小紫 雅史
生駒市をどの様なまちにするかということを日
頃考えています。とにかく子どもから年配の方
まで楽しく暮らせる町にすることが一番大切と
思っています。生駒市長になった時は、若くて
格好良いイケメン(?)という評判を受けたの
ですが、今は三人の子育てに励んでいるところ
です。

十一月句会 十一月二十一日(月) 一三時開場

いきいきホール2階

「不思議」互選 「和む」(連記) 幸男

「完璧」郁子 「ささやく」(共選) きよな 乃り子

各二句 自由吟(記名で提出) 自選二句

*状況が許せば十二時三十分より食事会(忘年会)